越後平野における生態系ネットワーク推進協議会　生息環境検討部会（第1回）
議事要旨（案）

■日時：令和５年１月 16 日（月）13：30～15：30
■場所：北陸地方整備局４階合同会議室（web 会議併用）

■規約の確認
　承認
■部会長、副部会長の選任
　規約に基づき事務局より推薦。部会長に関島委員、副部会長に河口委員を推薦し、承認

■議事
（１）生息環境検討部会の進め方について

部会長

・　生態系ネットワークの形成によって生物多様性の保全を進め、同時に地域の資源を活用し、地域の活性化につなげていくため、皆様のご協力をいただきたい。
・　いずれの取組を進めるにあたっても、まずは、限定的・試行的に実施し、効果を検証する段階を経てから、本格的に進めていくのが良いだろう。
・　点的な環境整備だけでなく、流域全体の面的な視点で進められると良い。
・　環境だけに視点を置く取組の実施は現実的ではないだろう。Eco-DRR を取り入れた治水事業が進められると良い。

副部会長

・　国土交通省による河川整備を進めていく中で、治水だけでなく自然再生や生息環境の場づくり等の環境に対する整備も、生態系ネットワークの取組の一環として先行的に実施していくと良い。
・　他地域の河道掘削等を利用した環境整備の先駆事例の情報収集を行い、維持管理する上での課題を抽出しておくと、計画が立てやすくなるだろう。

（２）越後平野生態系ネットワーク全体構想と行動計画のイメージについて

委員

・　全体構想のハクチョウ類のポテンシャルマップの使用写真については、オオハクチョウの写真ではなく、コハクチョウの写真に差し替えた方が良い。

部会長

・　役割を担う関係各所に積極的に取組を進めて頂くには、理解を得ることが重要である。将来的に想定される社会問題（人口減少に伴う耕作放棄地の増加や地域経済をいかに回すかなど）に対して、環境分野の事業に限らず、総合計画などに関連づけて本取組を実施していくことが望ましい。関係主体が生態系ネットワーク事業を活かしながら、危機管理意識を持ち、地域づくりを進めていくと良い。

副部会長

・　手放されていく農地や森林をどのように活用・維持していくかが今後課題になるだろう。農林水産省が持っている全国の農地の GIS データ等を活用し、市町村レベルで課題をどのようにとらえ、それをどのようにプラスに変えられるかという検討に繋げられるとよい。

・　治水と環境の取組をすり合わせできる場所と、生息ポテンシャルマップとを重ね合わせることによって、取組を検討する場所を抽出できれば、関連する市町村も関わりやすくなるのではないか。実際に具体的な場所で活動する際にはワーキングを開いてもよいと思う。

委員

・　対象地域ではあるが現在参画していない市町村にも早く声掛けをし、会議に参加してもらった方が良い。県においても、越後平野生態系ネットワークの事業には環境対策課が参画しているが、行動計画をみると環境対策課以外の課が関わるようなところもあるので、関係機関に広く声掛けをした方がよい。

委員

・　トキの本州の放鳥については、農業への影響の懸念から、現在検討が中断されている。指標種にトキが入っている今回の構想や行動計画においても、農業や観光関係者などが幅広く絡んでくる。計画等のとりまとめに際しては、関係者の意見をふまえてとりまとめていくのか、環境保全の理想の姿を行政側として提示して共有するのかによって、調整のやり方も変わってくると思われるので、いずれの方向性であるのか教えていただきたい。

部会長

・　環境保全の理想の姿を提示して、各地での取組は関係者の意思を踏まえながら進めていく必要がある。

（３）生息ポテンシャルマップ（ガン類、ハクチョウ類）と取組地域の選定について

（新潟大学研究室より、生息ポテンシャルマップについて、説明）

委員

・　ガン・ハクチョウ類からみると越後平野全体が一体的な湿地であり、越後平野全体がねぐら、採食地であるともいえる。

部会長

・　越後平野全体が重要ではあるが、生息ポテンシャルマップを用いて抽出した地域は、地域づくりも含め、先行して取組を行う地域と認識していただきたい。

・　生態系ネットワーク事業は、単なる環境事業ではなく、生態系ネットワークを担保しつつ地域づくりを考えていくものであるととらえている。ガン・ハクチョウ類はこの地域の資源ととらえ、この資源をいかに活用しどのように地域を元気にしていくかについて考えるのがこの事業であると理解していただきたい。

・　越後平野でどれくらいの個体数・生息地を増加させれば、その種の保全に寄与したことになるのかという問題については、不確定要素が多すぎて検証・評価ができないため、生態学の立場からは、個体群サイズや生息地の増加に向けた目標を、根拠をもって設定することは困難である。30 by 30 やネットゼ

ロのように、政治的に数値目標を定めてもよいのではないかと思う。

- 各自治体では、生物多様性地域戦略の改訂時期を迎えていると思われる。生物多様性地域戦略は、生態系ネットワーク事業とも重なる部分が多いので、同戦略の担当部局に生態系ネットワーク事業の取組を紹介しながら、同戦略と生態系ネットワークとの紐づけを担当者同士で行っていただきたい。
- トキの採餌環境のポテンシャルマップは７・８月頃解析を行う。

副部会長

- 北陸地方整備局が既に行っている阿賀野川の自然再生事業の場所とガン・ハクチョウ類の生息のポテンシャルが高い地域は非常に近い場所に位置している。これは見方を変えると越後平野の生態系ネットワーク事業に阿賀野川の自然再生事業の取り組みを落とし込むと、北陸地方整備局は既に、生態系ネットワークの核となる事業を行っているととらえることができる。
- 国交省が流域治水として目指すゴールに対しての達成度合いを評価する必要があり、その仕組みを作ることが重要。
- 現在重要なねぐらが存在しているのは、潟があり周辺に農地があるためである。もし農業を放棄する場所が増加すると、いくらねぐらがあっても利用する数が減る可能性がある。耕作放棄地の面的な情報とねぐらの重なりを見ることによって、重要な生息地で耕作放棄地が増加していることが明らかになれば、そのような状況は指標種にとってマイナスな要因になりうるので、そういった場所で取組むべきことについて考えることはできる。
- 次回以降の生息環境検討部会の中で、阿賀野川の自然再生事業はどのような目的で何をやっているのかを紹介いただきたい。

（４） その他について

部会長

- 自然環境検討部会に参加されている方も活用部会に参加していただきたい。